

公立図書館における医学薬学分野の選書分析

松本直樹(慶應義塾大学) matsumoton@keio.jp

池谷のぞみ(慶應義塾大学) nozomi.ikeya@keio.jp

桂まに子(京都女子大学) katura@kyoto-wu.ac.jp

抄録

公立図書館において課題解決支援サービスの一環として医療健康情報サービスが実施されるようになっている。医療健康情報サービスでは、さまざまなサービスが提供されているが、コレクション構築、特に図書の収集提供は基本的なサービスの一つである。本研究では、全国の公立図書館における医学薬学分野に関する図書の選書に影響を与える要因を調査した。その結果、市区町村立図書館は利用の多い図書を選定する傾向にある一方、専門的な図書はあまり購入しない傾向が見られた。

1. はじめに

公立図書館において課題解決支援サービスの一環として医療健康情報サービスが実施されるようになっている。医療健康情報サービスにはさまざまなサービスがあるが、コレクション構築、特に図書の収集提供は基本的なサービスの一つである。医療健康情報に関わる図書には、医療従事者向けに書かれたものから、エビデンスに基づかない療法に関するものまでさまざまなものがある。

本研究では、全国の公立図書館の蔵書のうち、医療健康情報と密接に関わる医学薬学分野の図書の収集状況を調査し、選書の実態を明らかにする。

2. 先行研究

医療健康情報サービスの選書と関連する研究として杉江(2007)¹⁾は健康分野に関わるレファレンス資料の所蔵状況を調査している。また、岡部他(2012)²⁾は図書館員を対象とした半構造化インタビューを行い、科学的合理性を欠く図書選定について図書館の規模別に質的な分析を行っている。さらに、大谷他(2014)³⁾は代替医療本および疑似科学批判本の所蔵状況を調査している。これらの研究は医療健康情報に関わる図書のうち、その一部の側面に着目した研究である。本研究では複数図書館の蔵書を調査することにより、広範な医療健康情報関連図書の選定に影響を与える要

因を明らかにする。

複数図書館の蔵書を横断的に調査した研究のうち、本研究に比較的近いものとして大場他(2012)⁴⁾は複数の館種の図書館の収集状況を話題性、網羅性、発行形態などの観点から分析している。本研究はそうしたマクロ的研究と比較した場合、医療健康という領域限定の研究に位置付けられる。

公立図書館に置くべき医療健康に関わる図書については、一般的に質の高さ、広範性、新鮮などが選書の基準として挙げられる。より具体的には、市川他(2007)⁵⁾、ケニヨン他(Kenyon, Andrea)(2007)⁶⁾、「市民への健康情報サービスのための基本図書およびWEB情報源リスト」を作成する会(2008)⁷⁾、日本医学図書館協会他(2017)⁸⁾などが具体的な基準を整理している。

それらに概ね共通する基準として、出版年(5年以内等)、著者の適格性、目次・参考文献・索引の有無、エビデンスに基づくこと、価格の妥当性、マイナス情報の掲載、出版社等が挙げられている。

本研究では全国の公立図書館の医療健康に関わる蔵書データを株式会社カーリルが提供する図書館API⁹⁾で収集した上で、主に書誌情報に収録されている価格、出版社、索引の有無等に着目し、それらが選定にどのような影響を与えているかを明らかにする。その際、市区町村立図書館(以下「市区町村」と都道府県立図書館(以下「都道府

県)では、求められる役割が異なることから、それぞれを区別して違いを確認する。また、選書に際してはリスト発注が多いこと¹⁰⁾からその影響についても分析する。また、医療健康情報の収集では患者数が少ない、あるいは稀な病気に関する図書が収集されず多様性に欠けるとの指摘があることを踏まえ¹¹⁾、それらの実態を分類の観点から分析する。

3. 分析方法

先行文献を踏まえて、医学薬学分野の図書をいくつかの観点から分析する。

はじめに出版社について、日本医書出版協会加盟出版社、新刊急行ベル対象出版社、その他、という出版社類型に分けて分析する。日本医書出版協会は医学及び医学関連領域の専門書を出版する出版社の集まりである¹²⁾。新刊急行ベル対象出版社は株式会社図書館流通センター (TRC) による『週刊新刊全点案内』で「新刊急行ベル」収録対象図書を出版する出版社 (232 社) である¹³⁾。ここでは、比較的優先的にリストに掲載されている図書が選書にどのような影響を与えているかを検討する。「その他」はそれ以外の出版社である。なお、カテゴリ間の出版社の重複はない。

つぎに価格と索引の分析を行う。索引付きの場合、問題解決をより重視した著作と評価できる。索引のデータはNDL-OPACで提供されている日本全国書誌の書誌データの注記欄で確認した。さらに、医療健康情報サービスの蔵書は、多様性が欠けているとの指摘があることはすでに述べた。このことについて、分類の観点から分析を行う。

上記の分析に際しては、貸出率 (所蔵図書冊数に対する貸出し中・予約中の図書の比率) を算出して、上記の指標と組み合わせて分析を行う。値は高いほどよく借りられていることになる¹⁴⁾。当然、貸出しを重視して選書した場合、この値は高くなる。

今回、調査を行う図書は調査時点において出版からそれほど時間が経過していないものを対象としており出版年という面では共通である。また、目次はほとんどの図書が掲載しているため分析から外した。

4. 調査対象

2015 年 8 月 1 日から同年 10 月 31 日までに国立国会図書館で書誌作成の完了した図書のうち、国立国会図書館が付与している NDC (第 9 版) の第二次区分が 49 であるものを対象とした。国立国会図書館の納本率は 100%ではないが、多様な図書を比較的網羅的に収集できると考えたためである。データは、NDL-OPAC の「全国書誌提供サービス」の「全国書誌」から上記期間中の図書の書誌情報をダウンロードした。件数は 1,313 件であった。このうち ISBN が付与されていた 1,137 件を対象とした。

所蔵に関わるデータは以下のように取得した。ISBN をキーにして、株式会社カーリルが提供している図書館 API を使用して検索可能な 1,261 館に対して調査を実施した。対象とした図書館のカテゴリは SMALL, MEDIUM, LARGE, BM である。今回の調査では公民館図書室も含めている。但し上記カテゴリに含まれるもののうち、国立国会図書館、横断検索システム、大学図書館は除いた。図書館 API では「全国の OPAC 対応図書館のほぼすべてを網羅するリアルタイム蔵書検索機能」¹⁵⁾が提供されているとされている。なお、図書館 API は 1 時間あたりのリクエスト件数を最大 1,000 件に設定しているため、データ取得は 2016 年 11 月から 1 月にかけて実施した。

5. 調査結果

取得したデータは 1,433,733 件である。一部、取得したデータが文字化けしていたもの、所蔵データが変則的な表示となっていたものは分析から除いた。

まず、今回調査した対象図書の基本データは表 1 のとおりである。表の数値のうち、価格の平均値と中央値に大きな開きがあるのは一部に非常に高価な図書があるためである。

今回調査した 1,137 件の図書のうち、1 館以上で所蔵していたのは 1,004 件 (全体の 88.3%) であった。市区町村が 79.6%、都道府県が 78.3% をカバーしていた。後者は館数を考慮すると多様な図書を選定していることが伺える。

表1 対象図書の基本データ

価格（円）	平均値	3,287.8
	中央値	2,100
出版社ごとの出版点数（点）	日本医書出版協会加盟出版社	217
	ベル対象出版社	270
	その他	650
索引の有無（点）	有り	450
	無し	687
平均貸出率		14.2%

選定された図書の平均価格は表2のとおりである。出版物全体の平均と比較すると、都道府県、市区町村ともに大幅に安い。出版物全体の中央値はこれらの数値の間である。市区町村はより安いものを選定している。なお、価格と選定点数との相関係数は都道府県が -0.1703 ($p = 0.00 < 0.05$)、市区町村が -0.2208 ($p = 0.00 < 0.05$)であり、係数はともにマイナスだった¹⁶⁾。また、価格と貸出率の相関係数は -0.25974 ($p = 0.00 < 0.05$)であった。以上から、図書館の中でも特に市区町村は価格の安い図書を選定する傾向のあることが分かった。また、価格の安い図書は貸出率が高い傾向も見られた。

表2 選定された図書の平均価格

都道府県	2533.9円
市区町村	1524.0円

つぎに、出版社別の選定状況は表3のとおりである。「全体」は出版社類型ごとの出版点数の比率である。日本医書出版協会加盟出版社の図書は出版点数と比較して選定されていない。その傾向は市区町村で顕著である。ベル対象出版社の図書は、出版物全体に占める比率と比較すると、特に市区町村で積極的に選定されている。「その他」は、日本医書出版協会ほどではないが出版点数と比較すると選定されていない。貸出率は日本医書出版協会、ベル対象出版社、その他の順に8.0%, 19.8%, 14.6%であり、ベル対象出版社のものがよく借りられている。ここから、図書館はよく利用される可能性のあるベル対象出版社の図書を積極的に選定している傾向が読み取れる。

表3 出版社別の選定状況

	全体	都道府県	市区町村
日本医書出版協会	19.1%	11.9%	1.6%
ベル対象出版社	23.7%	47.4%	66.7%
その他	57.2%	40.7%	31.6%

索引の有無から見た選定状況は、表4のとおりである。市区町村と比較して都道府県は「あり」を積極的に選定しているが、全体との比較ではほぼ同程度である。市区町村は都道府県と比較して「なし」の比率が高い。貸出率は「あり」が10.2%で「なし」は16.9%である。「なし」の方が貸出率は高い。なお、先ほどの出版社類型ごとに索引の有無を確認すると、日本医書出版協会が最も多く(84.3%)、続いて「その他」(32.0%)、ベル対象出版社(21.9%)の順番であった。

表4 索引の有無から見た選定状況

	全体	都道府県	市区町村
有り	39.6%	39.3%	23.1%
無し	60.4%	60.7%	76.9%

最後に分野を確認する。所蔵点数としては498.3—個人衛生(14,752点)、498.5—食品・栄養(7,378点)、493.7—神経科学(5,895点)が多い。出版点数との比では491.3—生理学(同分野の出版点数の177倍、以下同じ)、494.8—皮膚科学(133倍)、494.5—腫瘍(116倍)が多く選定されている。全体として出版点数と所蔵点数の相関係数は0.886(都道府県は0.890、市区町村は0.879)(全て $p = 0.00 < 0.05$)であり、分野に関しては出版点数に連動して選定される傾向が強い。

分野ごとの貸出率について出版点数が10点以上の図書について検討した。出版点数に対する所蔵点数の比(上記の177倍等の数値)と、貸出率の相関係数を算出すると0.4642($p = 0.01 < 0.05$)であり中程度の正の相関が見られた。

以上から、図書館は分野に関して出版点数と連動して図書を選定しているが、その中でも比較的ニーズのある分野の図書を選定する傾向のあることが分かった。

6. まとめ

価格では特に市区町村で出版物全体と比較して安いものが選定される傾向が見られた。出版社については、市区町村は日本医書出版協会加盟出版社が刊行する図書をほとんど選定していない。都道府県はそれらを一定部数選定しているが、出版されたものと比較すると少ない。「索引あり」の図書は、都道府県の方が選定していた。分野については、刊行点数と類似したパターンで選定する傾向が見られたが、中でもよく利用されるものが選定されていた。

調査結果からは、公立図書館、中でも市区町村は利用を意識した選書を行っている傾向が見られた。一方、専門的な図書やエビデンスを意識した図書については都道府県が重視をする傾向が見られたが、顕著とはいえない。また、分類の分析からは図書館が出版動向と独立して選定を行っていることは確認できなかった。

最後に本研究の課題について述べる。今回の研究では、図書館を都道府県と市区町村に分けて分析を行った。別の区分として医療健康情報サービスの実施館と非実施館に分けて比較・検討することも考えられる。今後の課題としたい。また、TRC新刊急行ベルの対象出版社の図書は出版割合から比較し大幅に選定される傾向が見られた。こうしたリストがどのように作成されているかの検討も重要である。今後の課題としたい。

謝辞；本研究は2015年～2018年度科学研究費補助金基盤研究（B）（課題番号：15H02788）の一貫として実施した調査研究に基づく。

【注・引用文献】

- 1) 杉江典子「公共図書館における健康分野のレファレンスブック所蔵状況調査」『現代の図書館』Vol. 45, No. 3, 2007, p.165-175.
- 2) 岡部晋典, 中林幸子「科学的合理性に著しく反する図書を図書館はどう取り扱っているのか：聞き取り調査を手がかりに」*Library and Information Science*, No. 68, 2012, p.85-116.
- 3) 大谷康晴, 安形輝, 池内淳「代替医療を扱った本とその批判本の所蔵：日本の国立・公共・大学図書館の調査」『日本図書館情報学会研究大会発表論文集』Vol. 62, 2014, p.125-128.

- 4) 大場博幸他「図書館はどのような本を所蔵しているか：2006年上半期総刊行書籍を対象とした包括的所蔵調査」『日本図書館情報学会誌』Vol. 58, No. 3, 2012, p.139-154.
- 5) 市川美智子, 坪内政義「地域公共図書館との連携による健康支援事業」『医学図書館』Vol. 54, No. 3, 2007, p.253-259.
- 6) Kenyon, Andrea and Casini, Barbara Palmer『公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド』[The public librarian's guide to providing consumer health information] 公共図書館による医学情報サービス研究グループ訳, 日本図書館協会, 2007, 262p.
- 7) 「市民への健康情報サービスのための基本図書およびWEB情報源リスト」を作成する会『公共図書館のための「健康情報の本」選定ノート』「市民への健康情報サービスのための基本図書およびWEB情報源リスト」を作成する会, 2008, 49p.
- 8) 日本医学図書館協会, 日本医学図書館協会医療・健康情報ワーキンググループ編著『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス』（第3版）日本医学図書館協会, 2013, 191p.
- 9) 株式会社カーリル. “カーリル | 日本最大の図書館蔵書検索サイト,” <https://calil.jp/>, (参照 2017-4-12)
- 10) リスト発注でもっともよく用いられている『週刊新刊全点案内』の詳細は木下他及び尾下の文献で確認した。木下朋美, 中園長新『『週刊新刊全点案内』における新刊書籍の掲載状況』『出版研究』No. 42, 2011, p. 23-45., 尾下千秋『変わる出版流通と図書館』日本エディタースクール出版部, 1998, 136p.
- 11) 注8の文献, p. 93.
- 12) 『日本医書出版協会 50年史』では協会について「医学及び広く医学関連領域の専門書を発行する出版社で構成」されており、医学領域の専門家を主な対象としていると述べられている。日本医書出版協会『日本医書出版協会 50年史』日本医書出版協会, 2011, iii.
- 13) 対象出版社は図書館流通センター発行のパンフレット「2016年度新刊急行ベルのご案内」(p.10)で確認した。TRCの『週刊新刊全点案内』は7つのパートに分かれているが「新刊急行ベル」に掲載されている図書は、「ベル」対象出版社の出版物から図書館で利用度が高いと思われる図書を新刊選書委員会が選定し、希望する図書館に届けるものとされている。さらに、それらは『週刊新刊全点案内』の「ストックブック」欄（紹介欄が大きく書影も載る）に掲載される傾向が強い。なお、一例として『週刊新刊全点案内』（No.1955, 2016年3月15日号）における3類型のストックブック掲載率は、類型ごとに0.0%, 48.1%, 33.9%である。
- 14) 図書館APIからは、以下の貸出状況のデータを得られる。貸出可, 蔵書あり, 館内のみ, 貸出中, 予約中, 準備中, 休館中, 蔵書なし。このうち、貸出中, 予約中を貸出して算出した。
- 15) 注9のウェブサイト.
- 16) 4万円を超える図書10点は外れ値として価格に関する分析からは除いている。